横浜キネマ倶楽部
第４４号　会報
2016年8月20日発行

第４４回上映会

野火

Fires on the Plain

塚本晋也監督作品
（2014年／日本／カラー／87分／PG12／ブルーレイ上映）

(C)SHINYA TSUKAMOTO / KAIJYU THEATER

2016年8月20日（土）
［上映時間］　①11:00　②14:00
［会　　場］横浜市西公会堂

塚本晋也監督
講演
12:40～13:40

野火

Fires on the Plain

(C)SHINYA TSUKAMOTO / KAIJYUTHEATER

ストーリー

第二次世界大戦末期のフィリピン・レイテ島。日本軍の敗戦が色濃くなった中、田村一等兵（塚本晋也）は結核を患い、部隊を追い出されて野戦病院行きを余儀なくされる。しかし負傷兵だらけで食料も困窮している最中、少ない食料しか持ち合わせていない田村は追い出され、ふたたび戻った部隊からも入隊を拒否される。

スタッフ

製作 ： 塚本晋也
原作 ： 大岡昇平
脚本/撮影/編集 ： 塚本晋也
助監督/撮影/照明 ： 林 啓史
スチール ： 天満眞也
制作 ： 斎藤香織/山中亜矢子
衣裳 ： 岡部仁美
音楽 ： 石川 忠

キャスト

塚本晋也 ： 田村一等兵
リリー・フランキー ： 安田
中村達也 ： 伍長
森 優作 ： 永松
中村優子
山本浩司
神高貴宏
入江庸仁
辻岡正人
山内まも留

ヒストリー

＜レイテ島の戦い＞

太平洋戦争の開戦を告げた真珠湾攻撃以来、勢いに乗った日本軍はマレー半島やシンガポールなどのアジア諸国に次々と進軍。1942年1月にはフィリピン・マニラを陥落し、アメリカ極東陸軍司令官だったマッカーサーを豪州へと撤退させたほどだった。しかし同年6月のミッドウェー海戦で日本軍は大敗を喫し、以降、戦況は悪化。1944年10月には、マッカーサー率いる米軍がフィリピンのレイテ島に再上陸する。その数は10万人もの大部隊で、すでに食糧や医薬品の補給路も断たれていた日本軍は2ヶ月足らずで敗北が決定的に。結果、同島での日本兵の戦没者は約8万人と推測され、フィリピン全体では約50万人にのぼった。そのうちの約8割が飢餓や病気による病死と言われている。

（『野火』パンフレットより）

〖塚本晋也監督プロフィール〗

1960年1月1日生まれ。東京出身。14歳で初めて8mm カメラを手にし、88年に映画『電柱小僧の冒険』(1987年)で PFF アワードグランプリを受賞。劇場映画デビュー作となった『鉄男　TETSUO』(1989年)が、ローマ国際ファンタスティック映画祭でグランプリを獲得し、以降、国際映画祭の常連となる。中でも世界三大映画祭のイタリアヴェネチア国際映画祭との縁が深く、『六月の蛇』(2002年)はコントロコレンテ部門(のちのオリゾンティ部門)で審査員特別大賞、『KOTOKO』(2011年)はオリゾンティ部門で最高賞のオリゾンティ賞を受賞。さらに1997年はメインコンペティション部門、2005年はオリゾンティ部門と2度に渡って審査員を務め、2013年の第70回開催時には記念特別プログラム「Venezia70ーFuture　Reloaded」の為に短編『捨てられた怪獣』を製作している。この長年に渡って自主製作でオリジナリティ溢れる作品を発表し続ける功績を認められ、2009年のスペインのシッチェス・カタロニア国際映画祭から名誉賞、2014年にはモントリオール・ヌーヴォー映画祭から功労賞が授与された。俳優としても活動しており、2002年には『クロエ』(利重剛監督)、『殺し屋1』(三池崇史監督)、『溺れる人』(一尾直樹監督)、『とらばいゆ』(大谷健太郎監督)の演技で毎日映画コンクール男優助演賞を受賞。さらに人気ゲーム「メタルギア・ソリッド 4」ではヴァンプ役で声優も務めている。公開待機作に、遠藤周作原作×マーティン・スコセッシ監督『SILENCE(原題)』(2016年全米公開予定)がある。

(公式ホームページより)

・・・・・ アンケート集計結果 ・・・・・

＜ 2016．6．18　第43回上映会 ＞

来 場 者 数 201名　　アンケート総数 66枚(回答率 32.8%)

〈 作品についての評価・感想〉

「とても良かった」31枚 47.0%

●”自然共生”ということが自分にとってとても関心の強いテーマです。原発事故で山がどうなっているのか、このドキュメンタリーを見て、現実がよくわかりました。山へ入る人がいないという現状、秋田のマタギのお話もありましたが、少なくなって来ているのですね。今やマタギという人はなく、狩猟が趣味の人ばかりなのだろうと思いましたが、”山を診て、山の声を聴く”マタギの大切さを伺うことができて、自分にも何か出来ることがあるのではないか、考えてみたくなりました。

●熊がとれなかった。リアリティがあって、息をつめてしまいました。姫ますにも放射能汚染があることも恐かったです。

●監督はおだやかでエネルギーを持った素晴らしい人ですネ。感動しました。

●昭夫さんの声が、聞きとり難かった。方言ではなくマイクの為？ナレーションが大きすぎる気がした。エンドロールが読みにくかった。作品としてはとても良いのに。

●本当に素晴らしい映画でした。もっと多くの若い方、政治家にも観てもらいたいです。

●感動しました。この作品をアチコチで上映してほしいです。

●マタギの役割の大切さを学ばせて頂きました。

●マタギの生活の一面が知れて、興味深かった。もう少し日常生活も知りたい。

「良かった」30枚　45.5%

●「熊や動物が住めないような山は人間も住めない」という「またぎ」の人のセリフがあった。実感できるし、共感する。(福島の町は除せん出きても、山は除せんできない。くやしい)

●私の実家は新潟県村上市です。国道まで 10 分だが家の座敷のウラに熊のフンがあった由。サルが集団でウラの畑にくる。戦後から始めてのことです。只見駅の近くに友人夫婦が移住した。金山も遠くはない。子供の頃ばあちゃんとしょっちゅうキノ子取りに行ったが、今は山村の妹たちもキノ子の名も知らず、山に行かない。今、少し文明の生活から山村くらしにあこがれる気配が少し出てきたような気がする。

●映像の最後のシーンで撃ったのが日本カモシカに見えたのが気になりました。イノマタさんはクマでないことをわかって撃ったのか、カモシカはクマのように毛が黒くフサフサしている種もありますので。

●人の声の録音がよく聞きとれない箇所がありました。

●このような映画を見ないと日本のかの地であまり知られてない(私が知らないだけかも知れないが)このような仕事と今まで知らないところの実態、又東日本大震災の影響がリアルにわかって関心が広がりますし、だんだん忘れていかれてしまう状況がある中、貴重で多くの人が知っておかねばならないことと思いました。

●「山に入らなくなった」という自然の荒廃を象徴する現象の姿を見たように思う。最近、乗くら岳のらい鳥の卵をカラスが食わえているというニュースを聞いたが、解説で「山に入った人が残ぱんを残し、それにカラスがはびこっているのだ」と言っていたが、一部の現象を見て解説するマスメディアに危険を感じた。山に人が入って、自然を破カイしているのではない。高速道路や観光地を広げることで、自然を破カイし、山の自然を無視しているのだと思う。

「あまり良くなかった」2枚　3.0%

●マタギさんの話かと思ったら、震災・原発の話でした。少しがっかりです。

「良くなかった」0枚　0.0%

「無印」3枚　4.5%

○山に入らなくなったことが、熊が人を獲物として認識私始めたことにおどろく視点を得ました。

●人里に熊や猪がおりてくるのは、人にとってだけでなく動物や山にも良くないのだと知りました。

〈安孫子 監督講演についての感想〉

●くらしと人を前に出した映画のとり方がよいと思った。共感しやすい。

●熊、鹿、いのしし、人間社会に入りすぎてる様に感じます。もう少し人間が上だと動物にわからせるように出来ないか？

●やはり一人で撮影をされていたということで本当にその御苦労を思いました。

●もう少し大きい画面で見たいです。

●ハチミツの小ビンでもあったら、カンパの気持ちで買えたように思います。

●「マタギとは山を看ること」の言葉に感動。

●短い時間でしたが参考になりました。監督の山への想い、原発事故への怒り。。。多くの人びとに見て頂きたいと思います。

●安孫子監督の熱い想いがとても伝わりました。3・11以来東北の山、森がどうなっているのかすごき気になっていたので現状を知ることができて本当によかったです。

●言葉(会津弁)が聞き取れなかった部分が多かった。字幕も付けていただけるとありがたいです。又、笹ずれの音響すこし大きすぎかな？

2015春よこい製作委員会

〈これまでの上映作品〉　全47回　（特別上映会4回含む）

美 しい夏 キリシマ/パッチギ！/カーテンコール/二人 日和 /ゆれる/
トリノ、24時 からの恋人 たち/長い散歩 /天 空の草原のナンサ/
イノセント・ボイス―12歳の戦 場―/モーターサイクル・ダイアリーズ/恋するトマト/シッコ/
歓 喜の歌 /赤 い風船 ・白い馬 /三本 木農業 高校 、馬 術部 /ラストゲーム～最 後の早 慶戦 /
マリア・カラスの真実 /ディア・ドクター/扉 をたたく人 /縞 模様のパジャマの少 年 /春との旅/
小 さな村の小 さなダンサー/冬の小鳥 /ホームカミング/ミツバチの羽音 と地球の回転 /
デザートフラワー/ハーモニー心 をつなぐ歌 /ドーバーばばぁ織姫 たちの挑戦 /
エンディングノート/旅芸人の記録 /トガニ/月 世界 旅行 ・メリエスの素晴 らしき映画 魔術 /
かぞくのくに/警察日 記/名 もなく貧 しく美 しく/よみがえりのレシピ/きっと、うまくいく/
日 本の悲 劇 /ペコロスの母に会いに行く/息子 /ハンナ・アーレント/標的の村 /救いたい/
野のななのか/ぼくたちの家 族 /NO/春よこい

横浜に映画ファンの思いが反映される映画館を作ろう！

横 浜キネマ倶楽 部 は、横 浜で永年 親 しまれてきた映 画 館の相 次ぐ閉 館を惜 しむ映 画ファンが集まり、2005年 5月発足 し、「横 浜に映 画ファンの思いが反映 される映画館をつくる」ことを目 標 に掲 げて活 動 を続 けています。会 の存 在 をより多 くの皆 様 に知 っていただき、映画館をつくる目 標に一歩 でも近づけたい、それと同 時に良質 な映画を上 映することで、映 画 ファンの交 流 の場 を提 供 したい、という思 いで年 **4** 回 の上 映 会 を行 っています。

《横浜キネマ倶楽部のスタッフ募集中！》

横浜市民とともに11年、

映画好きが集まったグループです

「自分が観たい」　「他に人にもこんな良い作品をみてほしい」

とできたのが当倶楽部

ぜひ仲間になってください

ご関心のある方は下記までご連絡ください。
080－4022－1254
横浜キネマ倶楽部
事務局長　神谷（かみや）

特別上映会のお知らせ
日本初上映！！『手のひらを太陽に』

2016年11月5日（土）

上映時間　①11:00　～
　　②13:00　～
　　③14:45　～

ロビー交流会：　12:30 ～ 12:50

〔入場料〕

前売　600円　　当日　800円
障がい者　600円　(介助者１名無料)

〔会 場〕

横浜市西公会堂　045-314-7733
横浜駅下車徒歩10分
相鉄線平沼橋駅下車徒歩8分　岡野町バス停徒歩5分

(c)Rockefeller Bros.

『手のひらを太陽に』Palm to the Sun.
2015年/日本/カラー/86分/ブルーレイ上映

十代の頃、“8㎜映画”が結ぶ縁で、岩崎友彦監督と出会ってから 35 年近く。因果は巡り巡って、お互い五十代を迎えるに際し、「多くの観客に届く」ことを目標に、力を合わせて長編映画製作に乗り出した。それがこの、『手のひらを太陽に』だ。 期せずして、南アフリカやスペイン、インドなど、海外の映画祭での上映が先行したが、この度横浜の地で、“ジャパン・プレミア”上映の運びとなった。主催の「横浜キネマ倶楽部」には、ただただ感謝である。この作品は、主人公2人の風変わりな設定が、まずは目を引くかも知れない。しかし内容的には、観客の心にストレートに響く娯楽作と自負している。どうぞお楽しみあれ!!

～『手のひらを太陽に』プロデューサー　映画活動家／放送作家　松崎　まこと～

＜スタッフ＞　プロデューサー：松崎まこと、監督／脚本／編集：岩崎友彦
撮影／照明／録音:野火　明　特殊効果：内田剛史　　助監督：岡田真樹
人形制作：新井貴子　　人形操演指導：早川百合子
音楽：中村浩之　村下歌恵　塩澤伊織　岡村龍宏　宇津木紘一
＜キャスト＞札内幸太　　合　アレン　　近藤芳正　　矢部太郎　　地曳　豪　　井上　肇

横浜キネマ倶楽部会報

発行：横浜キネマ倶楽部

〒231－0012　横浜市中区相生町1の15
第2東商ビル4階－C　労働市民法律事務所
　気付
TEL：080－8118－8502（10時～18時）
Eメール：yokohama_kinemaclub@yahoo.co.jp
HPアドレス：http://ykc.jimdo.com